ちょっと待て。

戯言遣いの弟子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ちょっと待て。

【Ｎコード】
Ｎ０１８５Ｋ

【作者名】
戯言遣いの弟子

【あらすじ】
え～、読者様。
よく気付きましたね。
これは隠し小説（のつもり）です。
まぁ、余り真剣に読まないで下さい。
息抜き程度に読んでくださいな。

事実、百パーセント。

「……はぁ…！」
溜め息が出る。
幸せが逃げる？
なにそれ
「どう？驚いたかにゃ？」
「ちょっと待てやゴルァァァァァァァァァァァ！！！！！！！！！！！！！」
嗚呼…今日もまた、疲れる日に成りそうだ…。

ちょっと待て。

一話

？？？

「なんでお前が此所に居るんだ…！」
「おぉ怖い」
「怖がってねぇだろが…！」
「まぁまぁ、落ち着こうよ。弧埜娜佐奈（このなさか）君」
「るせぇ。その名前で呼ぶなってンだろうがよ…！」「きゃあ怖い」
「消えろ。」
「え〜」
「死ね。」
「え〜」
「糟野郎が。去ね。」
「…流石にキズ付くよ…？」
「なんか言ったかクソ野郎。」
「あれ？泣きそう？」

「あっそ」
???

「母さん、なんでコイツが居るの…？」
「♪狂った人に撃ち殺されて～」
小2女子の前でその歌はどうだろう。
「また…」
「ねぇ」
「鬱陶しい。離れろ」
「何言ってんの～高1女子に抱きつかれてんだよ？」
「…は？」
うむ。我ながらスットンキョウな声だ。
いやその前に、
女
だったのか…！？
「…え？もしかして、知らな、かった…？」
「……」
うむ。空いた顎が塞がらないとはこの事か。
まさか体験するとはな。
妹に教えよう。
（教えると空いた『口』が塞がらないだよ。と突っ込まれた。兄の威厳が…）
「えと、母様？」
「何かしら？」
「「ナゼニオシエテクレナカッタノデス？」」
ディスイズ『ハモり』
「面白いから。」
「…眠ってくる」

自宅二階

「何なんだ…一体…」
そして眠りに就く。

事実、百パーセント。（後書き）

「作者、何殺ってやがる？」
字が可笑しいから。
「笑うな」
次は娜佐奈が…！
「黙れ！」

新事実。

「で。お前はヒューストンに居る筈だったが？」
「うんっ☆」
「…」
「どしたの？？」
「なんで！今！ここに！居る！？」
「中退したから★」
「そうか。中退か。」
「うんっ☆」
「っざけるなぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！！！！！！！！！！！！！！」
「え〜〜〜〜〜〜〜〜〜？」「記号使うなぁ！」
「ぶ〜★」
「…コイツに常識を求めても無駄だな…」
「帆鴉（ほうし）梓ちゃんの方が正しいわよぅ」
「いや。コイツ『ラ』か。」
「「『ラ』はいらない！」」
「はいはい。消えろ。バカ二人。」
「恥ずかしがるなって。何せ『彼彼（彼氏彼女）』じゃん」

新事実2

「誰が恋人だぁ！俺は『女』だ！」
「え！？」
「…は？」
うむ。我ながら間の抜けた声だ。
「そう、だったの…！？」……まぁ、何だ。
「「え～～～～～～～～～～～～～～！！！！！！！！！！！？？？？？？？？？？？」」
「ちょっ、母さん言って無かったの！？」
「そうよ。知らなかったの？」
「ハハハ、ハイ！男の子だったら結婚しようかと思ってたんですが！いや女でも同性愛でもどんとこいですけどいいんですケドッ！」
「よくねぇ！俺がよくねぇ！」

新事実2（後書き）

本当はですね、純愛モノのハズだったんですけど…
いや、同性愛が不純では無いですが…
とにかく頑張ります！
（次は一旦休憩して、キャラ紹介にしようかと。）

自己（？）紹介タイム

やほ
「…何？」
「何～？」
おおぅ。
ローとハイだ。
よし、今度から娜佐奈を『ロー』で、帆鵜梓を『ハイ』って呼ぼう！
「病めろ。」
？　機嫌悪いね。
「低血圧なんだよ…っつーかお前作者だろ。何で知ら――」
かーーー！言うな～！禁句（ボクの中で）なんだ！
「『ハイ』はやだな～」
ん？　そう？
「うん」
じゃあ…
「良いから逝くぞ。えっと、先ずは…俺！？」

弧埜　娜佐奈
常識人。
苦労人。
ドS。…頑張れ…！

以上、弧埜　娜佐奈でした
「…最後、関係無く無く無く無く無く無くない？」
…否定なのか肯定なのか、僕にはもう分からないけどね…　バイいーちゃん

あい、おふざけは置いといて、
「俺、少ないな…」
関係無いかなぁ？
「「関係無い。」」
…ぶー
「…次行くぜ」

作者
戯言遣いの弟子
この小説の作――
「おい！」
え？
「次は綟流の出番だろ！」…ちっ

綟流（もじる）　帆鵜（ほうし）梓
色々可笑しい一般人。
「可笑しく無い！」
おっと失礼。

……
「ん？　どした？」
…やっべぇ、他に特徴が…！
「うそぉ！？…ッ！　読者様！特徴、探して！」
切り替え早っ！
…あ、特徴発見。
「何！？」
切り替えが早い。
「…グダグダだな…じゃあ、宜しくな…」
あ、おい！
ちゃんと――
ブツン（電源が切れる音）

自己（？）紹介タイム（後書き）

では、本編入りまーす。

…うー、風邪引いた…

では、本編入りまーす。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0185k/

ちょっと待て。

2010年11月14日10時10分発行